

INDEX

- 01-02 SDGsとは
- 03-04 経済協力開発機構(OECD)と北九州市とのつながり
- 05-06 「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」の軌跡
- 07-10 OECD SDGs 北九州レポートから
- 11-14 北九州市のSDGs達成に向けた取組み

OECDとの活動の軌跡

- 1985 (昭和60年)** → OECD環境レポートで、北九州市を「灰色のまちから緑のまちへ」と紹介
- 2011 (平成23年)** → OECDグリーンシティプログラムで「グリーン成長都市」に選定
- 2018 (平成30年)**
 - 4月 OECDより「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定
 - 7月 国連本部にて「ハイレベル政治フォーラム」開催 日本の自治体を代表して北九州市長が発表
 - 7月 モデル都市がニューヨークでキックオフ会議
 - 7月 OECDおよび南デンマーク地域が北九州市を訪問調査
 - 11月 北九州市がドイツ・ボン市を訪問
- 2019 (平成31年 (令和元年))**
 - 3月 第1回ラウンドテーブル会議 (各モデル都市参加: OECD本部 (パリ))
 - 10月 OECDおよびボン市が北九州市を訪問調査 (多くのステークホルダーとのワークショップ)
 - 12月 第2回ラウンドテーブル会議 (各モデル都市参加: ドイツ・ボン市)
- 2020 (令和2年)**
 - 2月 第10回世界都市フォーラム (UAE・アブダビ) OECDによる「SDGs統合報告書」発表
 - 11月 第3回ラウンドテーブル会議 (オンライン)
- 2021 (令和3年)**
 - 6月 第4回ラウンドテーブル会議 (オンライン) 「OECD SDGs北九州レポート (英語版)」発表 (北九州市長からビデオレター発信)



▲「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」選定



▲第1回ラウンドテーブル会議 (パリ)



▲OECDおよびボン市が北九州市を訪問調査



▲第4回ラウンドテーブル会議 (オンライン)

OECD SDGs推進に向けた地域的アプローチ プロジェクト ～北九州市の軌跡～

北九州市はOECDの世界9つのSDGsモデル都市・地域のひとつに選ばれました

北九州市 (日本)、ボン市 (ドイツ)、南デンマーク地域 (デンマーク)、フランダース地域 (ベルギー)、ヴィケン地域 (ノルウェー)、コーパヴォグル市 (アイスランド)、コルドバ州 (アルゼンチン)、モスクワ市 (ロシア)、パラナ州 (ブラジル) [ラインネッカー大都市圏 (ドイツ※2021年より参加)]

これは、北九州市の皆さんの努力と可能性が評価されたものです

OECD (経済協力開発機構) とは、日本を含む世界の38カ国が加盟する国際機関で、世界経済や持続可能な開発などに関する調査研究や政策提言を行っています。



- Kitakyushu City (Japan)
- Bonn City (Germany)
- South Denmark Region (Denmark)
- Flanders Region (Belgium)
- Viken County (Norway)
- Kópavogur City (Iceland)
- Córdoba Province (Argentina)
- Moscow City (Russia)
- Paraná Province (Brazil)
- [Metropolitan Region of Rhine-Neckar (Germany)]



北九州市のSDGsレポートが発表されました

OECDは、2018年から約2年間にわたる調査研究に基づき、北九州市のレポート (英語版) を発表しました。レポートでは、北九州市の優れた取組みの評価や課題を分析し、さらなるSDGs推進のために提言を行っています。



URL: <https://www.oecd.org/publications/a-territorial-approach-to-the-sustainable-development-goals-in-kitakyushu-japan-12db268f-en.htm>

このレポートは、OECDの「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」プロジェクトの活動やレポートなどをもとに、北九州市が作成したもので、OECD及びその加盟国の主張を示したものではありません。また、このパンフレットにある翻訳は、北九州市による仮訳であり、OECDによる公式の翻訳ではありません。



世界のすべての国が合意した国連の決定

SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、Sustainable Development Goalsの略で、「持続可能な開発目標」という意味です。国連創立70周年を記念する2015年に開催された「国連持続可能な開発サミット」で、日本を含む193の全ての国連加盟国により、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」という文書が採択されました。すべての国やステークホルダーが協力して、この行動計画を実行し、誰ひとり取り残さないことを決意しています。



2030アジェンダ文書
(全文は国連 HP▼
http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/70/L.1)



2015年にSDGsが採択された時の国連本部(写真:国連)

2030年までに達成する17のゴールと169のターゲット

この「2030アジェンダ」と呼ばれる文書には、2030年の理想の社会を描いた17の目標(ゴール)と具体的な169のターゲットが含まれています。169のターゲットの内、105は自治体が行わないと達成できないとされています。また、これらの進捗を測る232のグローバル指標(インディケイター)があります。北九州市は、日本政府がSDGsに先駆的な自治体を選定する「SDGs未来都市」や、経済協力開発機構(OECD)の「SDGsモデル都市」に選ばれ、地域にあったターゲットや指標も取り入れ、SDGsを通じてよりよい都市をつくっていきます。



また2020年からは、2030年まで残り10年を切ったことから、Decade of Action「行動の10年」と呼ばれ、目標達成に向けて行動のスピードをあげていこう、と呼びかけられています。

SDGsの理念:「5P」

2030アジェンダでは、SDGsの基本理念として、人間(People)、地球(Planet)、繁栄(Prosperity)、平和(Peace)、パートナーシップ(Partnership)の5つを掲げています。英語の頭文字が全てPから始まるので「5P」と呼ばれています。この5つが全て調和してこそ、持続可能な世界が実現できると信じられています。



(出典:国際連合広報センター)

社会、経済、環境の3側面の統合

さらに、SDGsは「社会」、「経済」、「環境」の3つの分野が統合することで、相乗効果を創出することを目指します。今日、世界や地域が直面するさまざまな問題は、より複雑になり、総合的な視点からの解決策が求められています。この3側面のバランスが取れてこそ、矛盾や犠牲(トレードオフ)を避け、政策や行動が自律的に持続すると考えられています。



経済協力開発機構(OECD)と北九州市とのつながり

アジアで初めての「グリーン成長都市」から「SDGsモデル都市」に

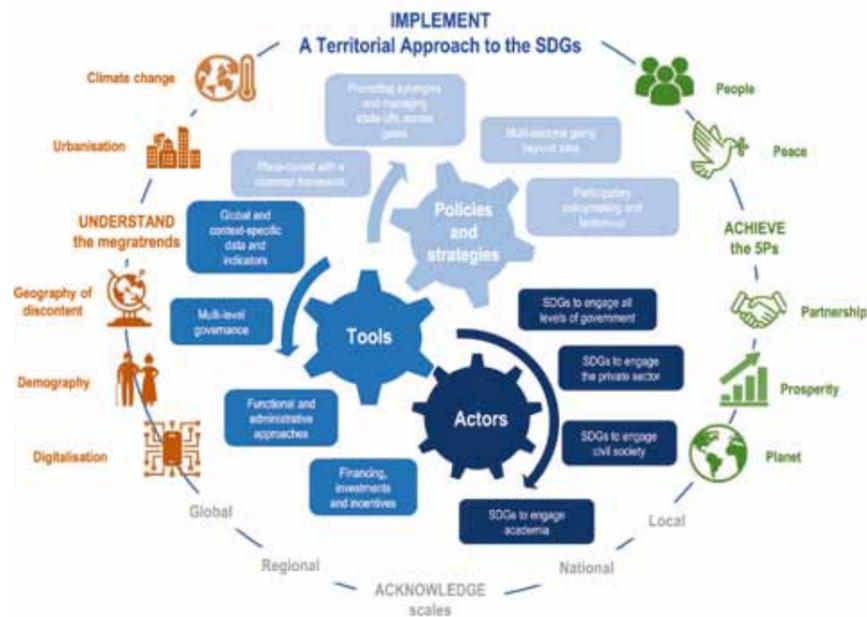
OECDと北九州市のつながりは長く、1985年にOECDが作成した環境レポートで、北九州市を「灰色のまちから緑のまちへ」と紹介しています。2011年には、OECDのグリーン・シティ・プログラムで、北九州市をパリ、シカゴ、ストックホルムと並んで、世界の4つの「グリーン成長都市」に選定し、環境と経済成長の両立を評価しました。

2018年、OECDは都市や地域でのSDGsを発展させる目的で、「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」プログラムを立ち上げました。SDGsに積極的に取り組む世界の9つの都市や地域を選定し、アジアからは北九州市が唯一、選ばれました。2018年4月に、OECD東京センター所長と北九州市市長は、北九州市庁舎にて共同記者会見を行い、プログラムがスタートしました(写真:裏表紙の年表・2018年参照)。

「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」プログラムとは

このプログラムでは、OECDと9つのモデル都市・地域が協働して、次の4つの活動を行い、世界の都市・地域間で学びあひながら、SDGsを推進する目的があります。

- **学ぶ (Learning)**
各モデル都市・地域のSDGsの実態を調査・分析し、動機、プロセス、成果などの教訓を学ぶ。
- **測る (Measuring)**
都市や地域に適した共通のSDGs指標をOECDのデータベースを活用して開発する。
- **共有する (Sharing)**
都市・地域、国やステークホルダーの間で、教訓・好事例・課題などを共有し、ピアラーニング(相互学習)を行う。
- **助言する (Advising)**
地域の背景や調査結果を踏まえて、OECDから政策提言を行う。



出典: OECD (2020), A Territorial Approach to the Sustainable Development Goals: Synthesis Report, <https://doi.org/10.1787/e86fa715-en>

OECDとは

OECDとはOrganisation for Economic Co-operation and Development「経済協力開発機構」の略で、日本を含む先進国を中心とした38ヶ国が加盟する国際機関です。1961年、フランス・パリに本部が設立され、東京にはアジア・太平洋地域の東京センターがあります。3千人以上の国際的な職員が、幅広い分野の調査・分析を行い、公共政策や国際基準の設定につながる助言を行うなどの重要な役割を果たしています。

モデル都市・地域とのピアラーニング

北九州市は、下記のモデル都市・地域とともに、プログラムを実施してきました。北九州市の好事例が世界の参考にされていることは、北九州市民にとって誇らしいことです。他のモデル都市(8都市)も特色あるSDGsを実施しており、北九州市も多くを学びました。注:ラインネッカー大都市圏は2021年から参加(OECDが調査中)

● ボン市(ドイツ)

長年築いてきたサステナビリティ戦略の蓄積をもとに、SDGsを統合した6つの優先分野を設定し、交通、エネルギー、住宅、グリーンスペース等の好循環に取り組んでいます。



(図:ボン市のサステナビリティ戦略の6つの優先分野)

● 南デンマーク地域(デンマーク)

ウェルビーイング(幸福や健康)や生活の質といった既存の価値観にSDGsを加え、地方合併を経た南デンマーク地域の新しい戦略を策定しました。



(図:南デンマーク地域開発戦略の6つの優先分野)

● フランダース地域(ベルギー)

多言語・文化が共生するフランダース地域において、民間や市民社会とのパートナーシップを通じ、SDGsを共通のコミュニケーション・ツールとして活用しています。



(図:フランダース自治体協会が開発したSDGsボードゲーム)

● ヴィケン地域(ノルウェー)

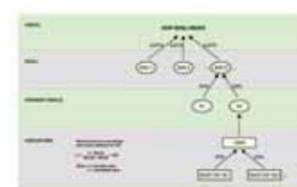
地方改革により3つの自治体が統合して誕生したヴィケン地域の計画策定のベースとして、SDGsを活用しています。



(図:ストックホルム・レジリエンス・センターのモデルを用い、地球の限界の概念を取り入れてターゲットを設定)

● コーパヴォグル市(アイスランド)

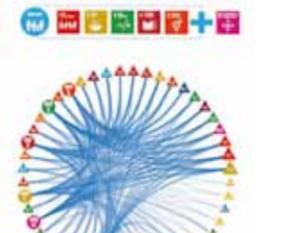
分野横断的なデータ・指標を統合したSDGsインデックスを開発し、政策・予算に統合しようとしています。



(図:多分野のデータベースをリンクさせたナイチンゲール・システムを開発し、SDGsインデックスを算出)

● コルドバ州(アルゼンチン)

市民社会とともにSDGsマトリックスを開発し、社会の包摂性(インクルージョン)を促進しています。



(図:社会の包摂性を促進する要素を特定するSDGsマトリックスを市民社会と開発)

● モスクワ市(ロシア)

バランスのとれたスマートシティ開発を行うフレームワークとしてSDGsを活用し、複数の分野間やステークホルダーとの連携(コーディネーション)を促進しています。



(図:モスクワ市のスマートシティ開発の領域モデル)

● パラナ州(ブラジル)

SDGsを予算計画に反映し、社会的格差を解消するとともに、州内に数百ある基礎自治体間での情報共有にも活用しています。



(図:パラナ州会計検査院のSDGsを予算に主流化するモデル)

出典:OECD(2020,2021)
A territorial approach to the Sustainable Development Goalsの各モデル都市・地域のレポート
<https://www.oecd.org/cfe/territorial-approach-sdgs.htm>

「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」の軌跡

OECDと北九州市は、「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」プログラムを下記の活動を含め、実施してきました。

学ぶ (Learning)

OECD調査団による北九州市訪問

OECD調査団は、2回にわたって(第1回目2018年7月26～29日、第2回目2019年10月3～4日)、北九州市を訪問しました。モデル都市・地域から、1回目は南デンマーク地域、2回目はボン市の代表も調査団に加わり、北九州市のSDGsの目的や実施事例を学び、市内のステークホルダーと意見を交換しました。

《第1回目 2018年7月》

第1回目は、基礎調査が主な目的です。北九州市の市長および副市長、関係部局との面談を行い、市のSDGsの目的や計画、実施体制等について情報交換を行いました。また、市内のSDGsに関するステークホルダーとの面談や合同ワークショップも開催されました。さらには、環境から経済や社会への相乗効果に貢献している市内の施設として、北九州エコタウン、次世代エネルギーパーク、日明浄化センター、日明かんびん資源化センターを視察しました。



副市長とのミーティング



日明浄化センターを視察

《第2回目 2019年10月》

第2回目は、SDGsの進捗情報のアップデートとステークホルダー参加型ワークショップが主な目的です。ワークショップには、行政に加え、民間、学術、市民社会のステークホルダー約30人が参加しました。OECDの北九州市への政策提言案をベースに、意見、実装するためのアイデア、各ステークホルダーが果たせる役割について、グループに分かれて討論しました。

ワークショップに参加したステークホルダー

- 行政 ▶ 北九州市
- 民間 ▶ ㈱北九州パワー、損害保険ジャパン(株)、シャボン玉石けん(株)、魚町商店街
- 学術 ▶ 北九州市立大学、地球環境戦略研究機関(IGES)
- 市民社会 ▶ 小倉高校、明治学園高校、JICA九州、里山を考える会、市民センター



ステークホルダーとのワークショップ

共有する (Sharing)

ピアラーニング、ラウンドテーブル会議

SDGsは、それぞれの経験や考え等を共有し、互いに学びあうピアラーニング・プロセスを重視しています。このプログラムでも、他のモデル都市・地域への訪問や全てのモデル都市・地域が集まるラウンドテーブル会議等で、ピアラーニングを実施してきました。

北九州市は、2018年11月にOECD調査団に加わり、ドイツ・ボン市を訪問しました。ボン市は、パリ協定の事務局を含む国連キャンパスがあり、国際協力も盛んな人口約32万人の国際的な都市で、国連でSDGsが採択される前から「サステナビリティ戦略」を実施してきた蓄積があります。近年、人口増に伴う交通渋滞、大気汚染、住宅難、多文化共生などの課題を抱え、SDGsを通じて総合的な解決策を模索しています。



ボン市への北九州市のSDGs取組みの発表

ラウンドテーブル会議は、全てのモデル都市・地域に加え、国や国際機関などからハイレベルな代表も出席する合同会議です。これまで4回開催され(第1回:OECD本部、第2回:ボン市、第3回&第4回:オンライン)、北九州市のSDGsの取組みを発表してきました。第4回では、完成した北九州市のレポートが披露され、北九州市長がビデオメッセージを発信しました(写真:裏表紙の年表・2021年参照)。

測る (Measuring)

都市・地域に共通するSDGs指標の開発

SDGsは232のグローバル指標がありますが、国に適合したものが多く、都市・地域レベルには適していないものがあります。このプログラムでは、世界の600以上の地域・都市を対象に、比較可能な共通の約100の指標を設定したウェブツールを開発しました。データがまだ限定的ですが、今後、拡充されていく予定です。このウェブツールは一般公開されており、どなたでもアクセス可能です。



指標のイメージ図

(出典:OECD都市地域におけるSDGs指標ウェブサイト「Measuring the distance to the SDGs in regions and cities」
<https://www.oecd-local-sdgs.org/> および 統合レポート2020)

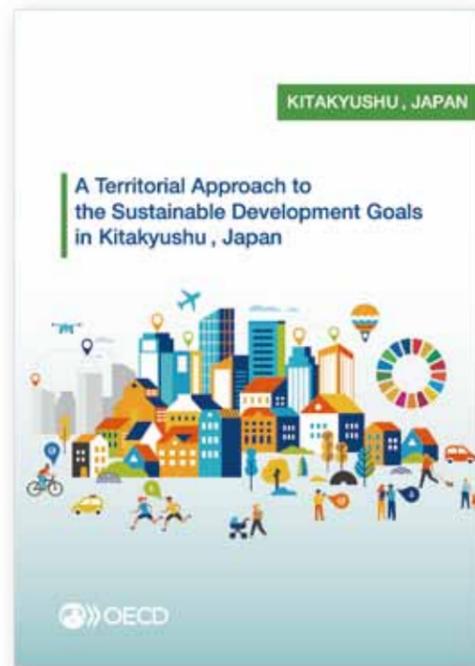
OECD SDGs 北九州レポートから

レポートの目的

OECDの「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」プログラムでは、「学ぶ」、「共有する」、「測る」、「助言する」の4つの活動を実施してきました。

「助言する」については、OECDがこれまでの調査を踏まえて、各モデル都市・地域ごとに、主要課題や対策の評価、今後の方向性などを独自の視点でとりまとめ、レポートとして世界に発信しています。

北九州市のレポート「A Territorial Approach to the Sustainable Development Goals in Kitakyushu, Japan」(北九州市のSDGs推進に向けた地域的アプローチ ※英語版、本編約70頁)が2021年6月に発表されました。レポートには、北九州市がSDGsを推進する背景や目的、計画、優良事例、課題、実施体制、データからの分析、そして、今後、北九州市がSDGsを通じて、より発展していくためのOECDからの提言が書かれています。



出典:OECD「A Territorial Approach to the Sustainable Development in Kitakyushu, Japan」(英語版)2021年6月
<https://www.oecd.org/publications/a-territorial-approach-to-the-sustainable-development-goals-in-kitakyushu-japan-12db268f-en.htm>

序文Preface

北九州市のSDGsの地域的アプローチを促進するため、北九州市長の熱心なリーダーシップをはじめ、100人以上のステークホルダーと2年間にわたり行われた政策対話への感謝が述べられています。北九州市のすばらしいSDGsの取り組みは、プログラムの多くの関係者や特に、北九州市を訪問したボン市および南デンマーク地域に共有されたことが書かれています。また、環境と経済の好循環を創り出し、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロの社会を目指すことも紹介されています。

第1章 北九州市の政策や戦略へ統合的アプローチを促進するSDGs

北九州市が公害を克服し、グリーン成長に転換した歴史を振り返り、なぜ現在のSDGsにつながっているのかをひもといています。現在の優先政策や先駆的な事例を紹介するとともに、課題も分析しています。北九州エコタウン事業が、環境と経済の好循環を創出し、産業の歴史を未来につなげていると、コラムで紹介されています。



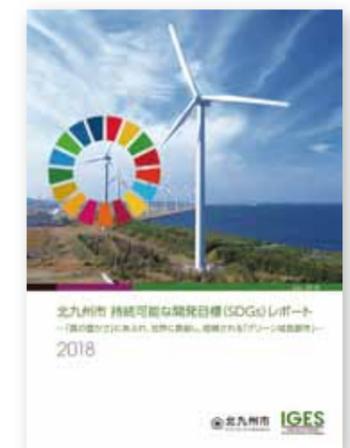
北九州エコタウン事業

SDGsを活用した相乗効果を生み出す優良事例として、環境・上下水道分野の「国際協力」や、市内のコミュニティで実施される「子ども食堂」、響灘沖の「洋上風力発電」が、他の都市では例を見ない特色ある取組みとして高く評価されています。



OECDレポートに掲載された「国際協力」、「子ども食堂」、「洋上風力発電」の相関図

北九州市は、世界初となった自治体による国連フォーマットに沿ったSDGsレポート「Voluntary Local Review (VLR)」(自発的ローカルレビュー)を、地球環境戦略研究機関(IGES)と連携して2018年に作成し、北九州市長が「国連ハイレベル政治フォーラム」で発表しました。これが、国内外の都市に影響を与えていることや、市長が「文化」を18番目のゴールに提唱したこと等が、称賛されています。



北九州市の自発的ローカルレビュー(VLR)レポート
<https://www.iges.or.jp/en/pub/kitakyushu-sdgs-report-2018/ja>

国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF):ニューヨークの国連本部で、毎年7月に開催される世界最大規模のSDGsの国際会議です。2018年に北九州市長は、日本の自治体を代表して出席しました。

出典:OECD「A Territorial Approach to the Sustainable Development in Kitakyushu, Japan」(英語版)2021年6月
<https://www.oecd.org/publications/a-territorial-approach-to-the-sustainable-development-goals-in-kitakyushu-japan-12db268f-en.htm>

第2章 北九州市の持続可能な開発の課題と機会

プログラムで開発した都市・地域の指標フレームワークを用いて、北九州市の強みや課題についての統計上の分析を行っています。ただし、指標の一部に関しては、OECDのデータベースの定義から、北九州市と周辺の通勤圏(12の自治体※)を含む機能的都市圏(FUA: Functional Urban Area)としての広範囲なデータが用いられています。

(※: 芦屋町、福智町、苅田町、小竹町、鞍手町、宮若市、水巻町、中間市、直方市、岡垣町、遠賀町、行橋市)

評価された点 (OECDの地域の平均値との比較)

※北九州レポートの記述順に掲載



課題とされた点 (OECDの地域の平均値等との比較)



出典: OECD [A Territorial Approach to the Sustainable Development in Kitakyushu, Japan] (英語版) 2021年6月
<https://www.oecd.org/publications/a-territorial-approach-to-the-sustainable-development-goals-in-kitakyushu-japan-12db268f-en.htm>

第3章 持続可能性を高めるためのマルチレベルガバナンスとステークホルダーの参画を強化する手段としてのSDGs

日本政府が選定した「SDGs未来都市」や設立した「官民連携プラットフォーム」に調和した形で、北九州市は独自のSDGs実施体制を築き、ゴール17に不可欠なパートナーシップを構築していることが評価されています。「北九州市SDGs未来都市庁内推進本部」、「北九州市SDGs協議会」、「北九州SDGsクラブ」や、市民社会、民間セクター、大学・学校・研究機関などステークホルダーの役割や活動が説明されています。



第4章 政策への提言と戦略の実装

北九州市でさらにSDGsを推進していくため、OECDから下記の7つの提言項目が示されています。(以下は、その要旨を記載)

	要点	政策提言 (要旨)
1	雇用機会の創出等	環境面の取組みを社会面、経済面の取組みへと結びつける等の相乗効果により、若者や女性の雇用機会の創出等を図る
2	国際協力のさらなる推進	これまで培ってきたノウハウ等を生かした設計・実施など、さらなる国際協力の推進
3	国、地方、関係者との連携強化	国や自治体の計画等と戦略的に連携するとともに、すべてのステークホルダーへの参加を促す
4	予算編成ツールへの活用および資金の誘導	SDGs達成のための予算を確保し、民間企業の参加を促進することでプロジェクトに資金を誘導する
5	データと情報の有効活用	SDGsをフレームワークとして活用し、わかりやすい形で計画・戦略等の指標や評価基準を作成するとともに、適切な進捗管理を行う
6	SDGsクラブのさらなる活用	SDGsクラブの活用を促進し、地域のニーズ等を考慮しながら、SDGs達成のための協調行動や共同施策を実施する
7	教育システムへの支援	ESDを通じて、SDGsに関する意識の向上に取り組む大学や教育システムへの支援を行う。また、あらゆる世代がSDGsを学べる生涯学習の実施体制を支援する

これらの提言に対して、2019年にOECDが北九州市で開催したワークショップで、行政および市内のステークホルダー(市民社会、民間セクター、学術など)が、短期・中期・長期的にどのような行動をおこせるか、意見交換を行っています。この結果も踏まえて、提案ごとに、「行動」、「主体者」、「時期」、「国際都市からの参考事例」がまとめられています。

出典: OECD [A Territorial Approach to the Sustainable Development in Kitakyushu, Japan] (英語版) 2021年6月
<https://www.oecd.org/publications/a-territorial-approach-to-the-sustainable-development-goals-in-kitakyushu-japan-12db268f-en.htm>

北九州市のSDGs達成に向けた取組み

北九州市は、市民、NPO、企業、大学、研究機関、行政が一体となって、SDGsの達成に向けて取り組んでいます。ここからは、OECDからの政策提言への対応や、経済、社会、環境の視点を踏まえたSDGsの取組みについて紹介します。

2030年のあるべき姿

北九州市では、「北九州市SDGs未来都市計画」(2021~2023)の中で、市民のみなさまと共有できるよう、「2030年のあるべき姿」を、5つの具体的な「まちの姿」とともに示しています。

SDGs戦略 「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」
～ポストコロナの新しい生活様式に対応した「日本一住みよいまち」の実現～

計画について <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/02000156.html>

北九州SDGsクラブ

SDGsの達成に向けた産学官民による幅広い活動の推進のため、団体・企業・個人等が自由に参加できる場を提供し、会員同士の交流や情報交換を通じて、各々の活動の活性化を目指しています。

北九州SDGsクラブについて <https://www.kitaq-sdgs.com/>



プロジェクトチーム

共通の課題を持ったSDGsクラブの会員が主体的にプロジェクトを立ち上げ、会員同士が連携してSDGsの達成に向けた取組みを行います。

- 発足したプロジェクト
- ・2019年度 ▶ 4件(防災、高校大学接続など)
 - ・2020年度 ▶ 2件(まち美化、紙の循環)
 - ・2021年度 ▶ 1件(住宅端材のアップサイクル)



まち美化

プロジェクトチームについて https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00011.html

SDGs経営サポート

SDGsクラブでは、会員の19金融機関が参加して、SDGsに関するコンサルティングや関係企業などとのマッチングサービスを提供しています。

▶金融機関へワンストップで情報を提供し、SDGs経営に取り組む企業を速やかに支援します。

SDGs経営サポートについて https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00006.html



子ども食堂

市内に35ヶ所以上あり、地域のみなさんやNPO、企業などが主体となり、子どもたちに無料もしくは低料金で食事の提供を行っています。食後は、地元の大学生や地域のボランティアの方々が宿題を教えたり、学びや遊びの体験を通じてコミュニケーションを図ったりしながら、安心して楽しく過ごすことのできる地域の多世代交流の場にもなっています。

▶地域の方々の生きがいづくりにも貢献しています。



子ども食堂での食事の様子

未来人財の育成

SDGs未来都市に選ばれた本市への理解を深めるとともに、SDGsの各目標の視点から世界的な課題を学ぶことができる地域教材を作成し、市立の小中学校で活用しています。

高校生に対しては、地域課題等に関心を持ち、解決策を考える探究学習での成果を発表するコンテスト大会「高校生SDGs選手権大会」を毎年開催しています。

▶SDGsに関心を深め、課題を自分ごととし、自ら行動を起こすことのできる人材の育成につながります。

高校生SDGs選手権大会について <https://www.kitaq-sdgs.com/category/hs-championship>



中学生による発表・展示

北九州SDGs登録制度

脱炭素やESG投資の潮流が強まる中で、SDGsの達成に寄与する市内の企業・団体等を登録し、その取組みを「見える化」することで、市内企業・団体等のPRやSDGsの普及・実践を図るものです。(2021年8月~)

▶企業等へのSDGsの普及・浸透による「①競争力向上」「②社会課題の解決」「③地域活性化」

北九州SDGs登録制度について https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/324_00016.html

北九州市SDGs未来基金

SDGs戦略に掲げる「グリーン成長都市」の実現を強力に後押しするため、2021年4月に5つの基金の統合、再編による財源やふるさと納税、公営競技の臨時収益の一部を活用して新たな基金として創設しました。

▶安定的な財源を確保し、必要な事業を継続的に推進していきます。

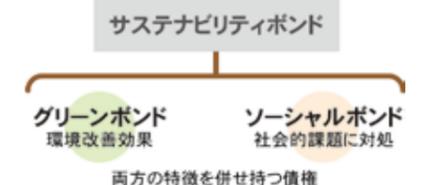


SDGs未来基金の3つのテーマ

北九州市SDGs未来債

SDGs戦略達成に向けた取組みを推進するための資金調達の一環として、自治体初となるサステナビリティボンドを2021年10月に発行しました。

▶募集した資金は、環境改善効果や社会的課題の解決につながる事業など、SDGs関連プロジェクトに活用します。



両方の特徴を併せ持つ債権

北九州市のSDGs達成に向けた取組み

ESDとは

ESDとは、「Education for Sustainable Development」の略称で、「持続可能な開発のための教育」と訳され、「持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人の育成を目的とした教育」のことを言います。「教育」はすべてのSDGsの基礎であり、ESDを推進することはSDGsの達成に貢献することとなります。SDGsの基盤となる「持続可能な社会」の構築を図るためには、ESDの視点は不可欠です。

ESDとは『限りある地球を未来の世代にひきつぐために、学び・考え・行動すること』です。

例えば 

流しそうめんて例えると・・・



出典：環境省「世界を変えるために行動しよう！ 2030年の持続可能な未来に向けて」

<北九州市のESD>

2006(平成18)年に、市民、NPO、企業、大学、行政などから成る「北九州ESD協議会」が発足しました。多くの分野の団体・個人が集まり、市民を中心とした様々なESD活動を積極的に推進しています。また、北九州市は2006(平成18)年に「RCE北九州」として国内4番目のRCE(国連大学が認定するESDに関する地域拠点)に認定されています。本市では、SDGsという言葉が提唱される以前から、「持続可能な社会」の構築のためにESDに取り組んでいます。

▶持続可能な社会づくりのためには、一人ひとりが自らの行動を変革し、社会に働きかけていく必要があります。

北九州エコタウン事業

北九州市には、我が国最大級のリサイクル事業が集積しています。この事業により、市内で消費された様々なものが、市内のリサイクル企業で再資源化され、再び新たなものづくりや市民生活に活かされています。

▶ごみの分別を適切にすることで、リサイクルが可能となり、ごみの削減に貢献できます。分ければ「資源」、混ぜれば「ごみ」です。



北九州エコタウン事業

2050年の脱炭素社会を目指して

世界で脱炭素に向けた動きが加速している中、我が国でも新たな削減目標が発表されています。北九州市では、「エネルギーの脱炭素化」と「イノベーションの推進」を図りながら、産学官民が一体となって、温室効果ガスの削減に向けた取組みを進め、「環境と経済の好循環」の成功モデルを目指します。

- ▶2020年(令和2年)10月「ゼロカーボンシティ」を宣言
- ▶2021年(令和3年)6月「北九州市気候非常事態宣言」を表明
- ▶2021年(令和3年)8月「北九州市地球温暖化対策実行計画」を改定(市内域の温室効果ガス削減目標4.7%以上削減[2013年度比])

再エネ100%電力化の取組み

- ①2025年(令和7年)度までに市の全ての公共施設(約2,000施設)を再エネ100%電力化(都道府県・政令市初)
- ②「再エネ100%北九州モデル」の利用拡大による再エネの普及
- ③広域(北九州都市圏域)で連携した脱炭素の推進

- ▶市内企業の競争力の強化
- ▶再エネの普及による、脱炭素化への貢献



ごみの削減に向けて

循環型社会構築のため、SDGsと脱炭素社会の実現も見据え、市民・事業者の皆様と持続可能な社会を目指します。

	2019年(令和元年)度	2030年(令和12年)度
市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468 g	420 g 以下
リサイクル率(一般廃棄物)	28%	32%以上

▶ごみの減量化や資源化を推進することにより、ごみの焼却時等の環境負荷を低減できます。



生ごみコンポスト化容器活用講座

環境国際貢献の面から

北九州市は、公害克服の過程で培った技術等をアジア諸都市での国際協力に活かしています。フィリピン・ダバオ市とは、廃棄物減量化とエネルギー利用を図るため、廃棄物発電施設の導入を共同で進めています。

▶環境国際協力を進めることにより、世界の脱炭素化に貢献できます。



フィリピン・ダバオ市と環境姉妹都市提携 (2017年11月)

持続可能な社会づくりのためには、一人ひとりが自らの行動を変革し、社会に働きかけていく必要があります。これからも、「オール北九州」で、SDGs達成に向けて、身近なところから取り組んでいきましょう！

